航空機による日食観測

宗谷洋一

"天文観測年表'81"によると『高度1万mの上空で日食を観測するため、実行されれば晴天は確実だが、片側だけしか観望できないので費用は割高』と書かれている。

7月31日皆既日食のサハリン東方の、上空からの観測に対する航空機のチャーターは昨年から交渉中であるが、その交渉は今年1月後半になっても難航をきわめている。

実際に交渉に当っておられるJ.T.B.(日本交通公社)の草野和郎氏からのメモをそのまゝ書きうつすと以下の通りである。

『(1) 7月31日は各航空会社のピーク時期にあたり機材の確保が難かしい。

(2) 通常国内線におけるチャーターは難かしい上に定期航路をはずれるので実に困難。

(3) 一部ソ連領空内を飛行する事になり航空管制上の問題もある。

従って今後の見通しとしては、上記3点が解消されるとしても、計画の発表は日食の3カ月以前になるが100%の保障はない。』というのが現在の状況です。

草野氏には学術研究という面で押して貰っていますが、あてにしないで待っていて欲しいというのが、本当のところなのです。

草野氏といえば、1976年オーストラリア日食に行かれた方はおぼえていると思いますが、B班ボンバラで全員、皆既食中の雲を見上げて残念がっている中で只一人、日食を見ていた人として知られています。

添乗員であった氏は日食時、ホテルでテレビ中継された太陽コロナを見ていたというわけです。

皆既日食とコーカサス天文台天文視察研究旅行団

◎期　間　7月28日(火)〜 8月9日(日) 13日間

◎コース　新潟→ハバロフスク→イルクーツク→プラーツク(日食観測)→イルクーツク→モスクワーミネラルウォーター→コーカサス・ゼレンチウスカヤ天文台→ミネラルウォーター→モスクワ→東京(羽田)

◎旅　費　42万3000円(全行程3食つき)

◎定　員　35名(最低実施人員21名)

◎申込締切　4月30日(一次)、6月26日(二次)

◎連絡先